

[年度] 26年度和歌山県農林水産試験研究成果情報

[成果情報名] エコフィールドによるイノブタの筋肉内脂肪の増加

[要約] イノブタの筋肉内脂肪は約2.5%であるが、低リジンのパン主体飼料を給与すると約4%まで筋肉内脂肪を増やすことができる。

[キーワード] イノブタ、筋肉内脂肪、脂肪交雑、脂肪酸組成

[担当機関名] 畜産試験場

[連絡先] 0739-55-2430

[専門分野] 畜産

[分類] 研究

[背景・ねらい] イノブタの特徴として、出荷まで約10カ月かかるため、飼料コストの低減が望まれている。また、イノブタの中には「霜降り」になるものも、まれに見られ珍重されるが、数は少なく安定生産には至っていない。そこで、本研究では「霜降り」の指標である筋肉内脂肪の多いイノブタ肉を低コストで生産することを目的とし、イノブタの発育と肉質に対するパン主体の低リジン飼料の影響を調査した。

[成果の内容・特徴]

1. イノブタ肉のロース芯（胸最長筋）の筋肉内脂肪含量は慣行の配合飼料を給与した対照区は約2.5%だが、パン主体の低リジン飼料（表1）を給与すると約4%に向上する（図1）。
2. 生産性（飼料摂取量、日増体量）は低リジン区が対照区に比べ低下し、出荷は44日間延びた。
3. 枝肉性状（枝肉重量、枝肉歩留、背脂肪厚）は去勢が雌より増加する傾向を示した。
4. 剪断力価、調理損失は低リジン区が対照区よりやや増加したが、性の影響は認めなかった。
5. 胸最長筋の脂肪酸組成では、低リジン飼料によりパルミチン酸、ステアリン酸はやや低下し、パルミトレイン酸、オレイン酸はやや増加した。また、リノール酸は去勢より雌でわずかに増加した。
6. 以上の結果より、イノブタの胸最長筋の筋肉内脂肪含量は約2.5%で、パン主体低リジン飼料を給与すると、飼料摂取量、増体日量が低下するものの、筋肉内脂肪含量が増加すること、さらに性の影響では、雌より去勢の方がやや日増体量に優れ、背脂肪厚は厚くなる傾向にあり、背脂肪の融点はやや低くなることが分かった。

[成果の活用面・留意点]

- ・イノブタ肉の脂肪酸組成、筋肉内脂肪含量は肉質の宣伝に活用できる。

・イノブタの発育性の改善について研究を進めるとともに、イノブタ肉の肉質向上について明らかにするには肉の官能特性、嗜好性を調査する必要がある。

[具体的データ]

表 1. 対照飼料と試験飼料の栄養成分

	対照区	低リジン区
分析値, %		
水分	12.35	10.84
粗タンパク質	15.07	15.77
粗脂肪	3.79	2.36
粗灰分	4.28	4.61
粗繊維	4.99	3.19
リジン	0.60	0.42

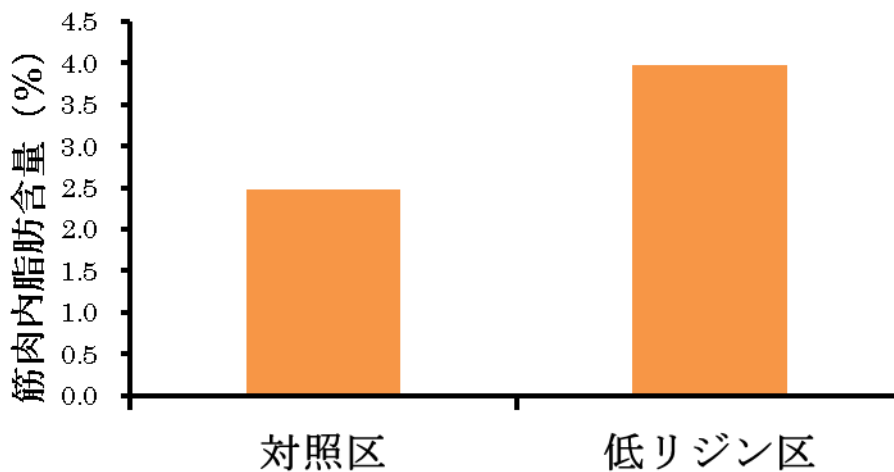


図 1 胸最長筋の筋肉内脂肪の含量

[その他]

研究課題名：「霜降り」イノブタ肉生産技術の開発

予算区分：県単

研究期間：平成 25～27 年

研究担当者：前田恵助・楠川翔悟・松田基宏

発表論文等：日本養豚学会誌 51(1).1-12. 2014.

ホームページ掲載の可否：可